

# (11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが見られる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

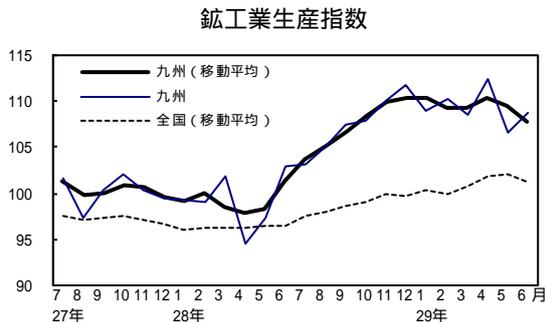
## 前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年5月)	今回(平成29年8月)	
個人消費	底堅く推移	持ち直しの動き	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	

## 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

4～6月期には、輸送機械は、四輪自動車、四輪自動車部品等が強含んだことから増加した。電子部品・デバイスは、半導体集積回路等を中心に高水準でおおむね横ばいとなった。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等を中心に高水準でおおむね横ばいとなった。化学・石油石炭製品は、有機化学製品等が増加したものの、おおむね横ばいとなった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	24.5	4.8	3.0	8.6	11.2	7.3
電子部品・デバイス	12.3	1.8	1.7	8.8	2.5	1.2
はん用・生産用・業務用機械	11.2	11.4	1.9	2.4	7.8	0.6
食料品	9.6	0.8	1.6	4.5	0.3	1.7
化学・石油石炭製品	8.3	2.3	1.9	3.1	2.7	0.6
鉱工業	100.0	0.6	0.0	3.7	5.2	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

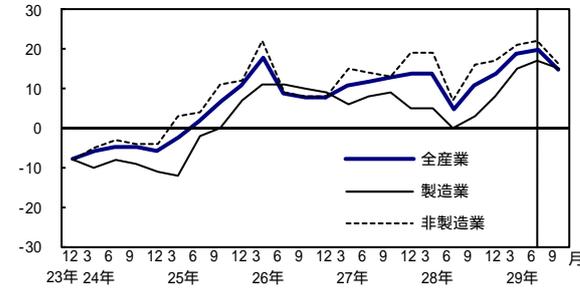
直近月は2か月平均。

(11) 九州

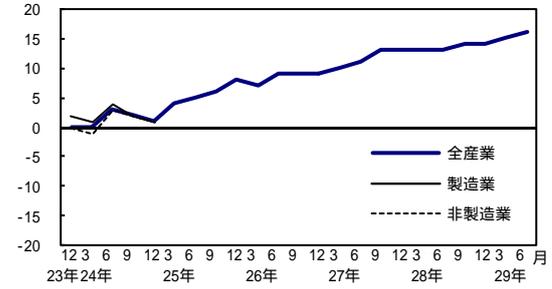
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



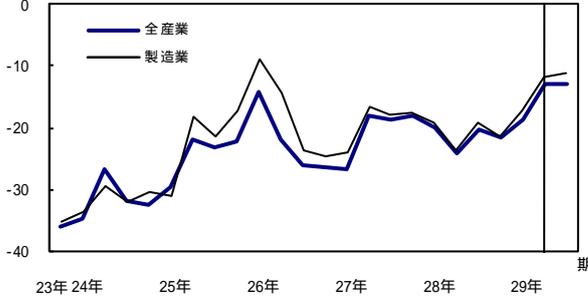
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



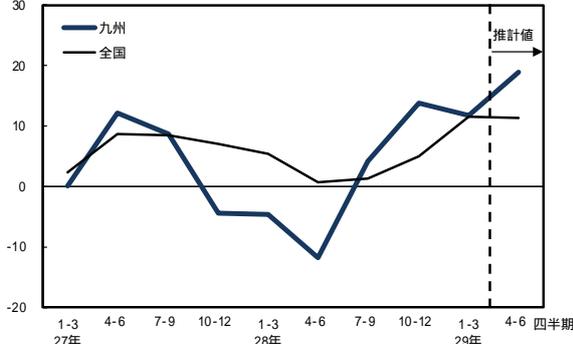
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「取引先である中小企業は、九州北部豪雨の影響をあまり受けていないが、豪雨と猛暑の影響で一般的に客足が減っている。建設関係は九州北部豪雨の関連の建設受注が1年半後に期待できる。ただ総じて人手が不足し現状は変わらない(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業	22.8 ( 2.9)	21.5 (3.3)
製造業	34.9 ( 1.6)	29.5 (8.6)
非製造業	5.2 ( 4.1)	13.3 ( 2.0)

(備考) 1.( )は前回(3月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

3.沖縄を含む。

(備考) 29年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが見られる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.0%増、5月は同1.1%増、6月は同0.7%減となった。

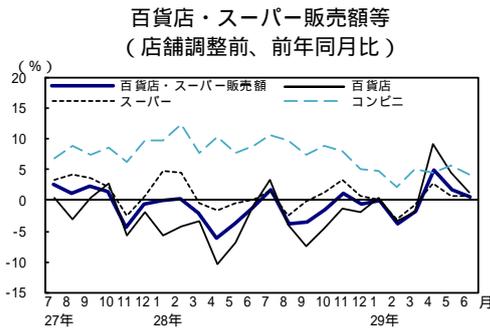
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、衣料品等の動きが良く、飲食料品に動きがみられ、前年を上回った。5月は、身の回り品等に動きがみられ、化粧品や宝飾・貴金属等の動きが良く、前年を上回った。6月は、飲食料品の動きが鈍かったものの、身の回り品や化粧品、宝飾・貴金属等に動きがみられ、前年を上回った。

スーパーは、4～6月期は、化粧品等に動きがみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「お中元時期になり、客の買物も若干増えてきた。特に食品雑貨や生鮮食品のお中元を購入する客が結構いる (スーパー)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.4	1.0	1.1	0.7
百貨店・スーパー(*2)	2.4	4.8	1.8	0.6
百貨店(*3)	4.8	9.1	4.4	1.3
スーパー(*3)	1.3	2.6	0.6	0.7
コンビニ(*3)	4.8	4.4	5.7	4.3
乗用車(*4)	21.2	22.6	20.1	21.0
(季節調整値)(*4)	11.5	13.4	3.2	0.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

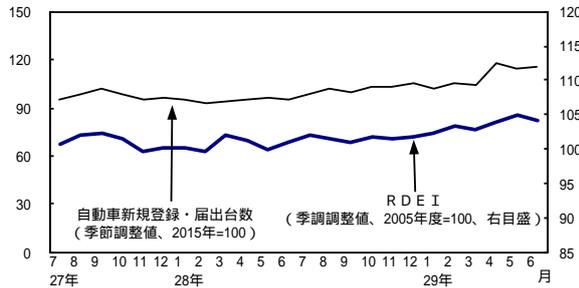
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

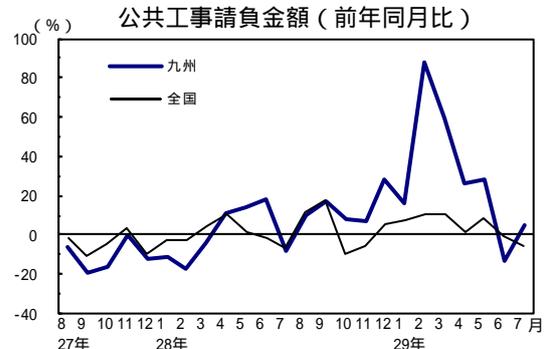
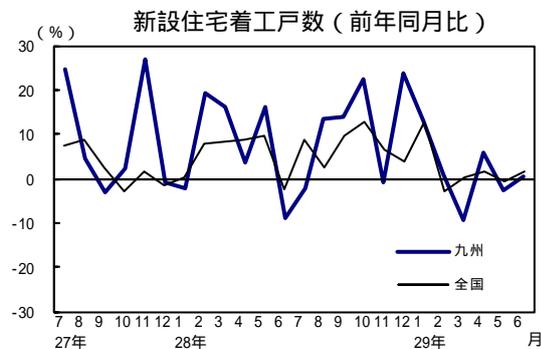
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(2) 住宅建設は増加している。

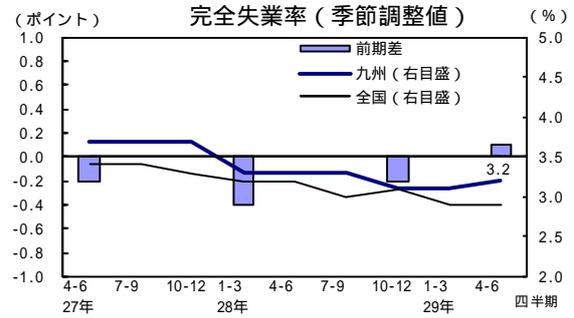
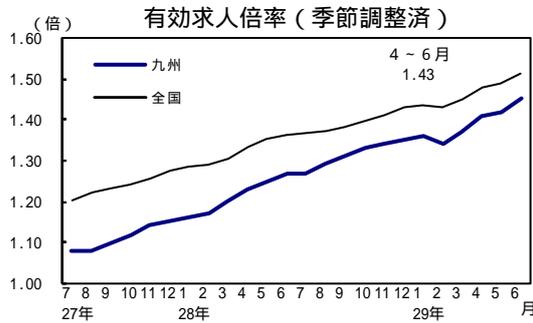
貸家が前年を下回ったものの、持家と分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は29年度累計でみると前年度を上回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。  
 有効求人倍率及び完全失業率等  
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

#### 景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

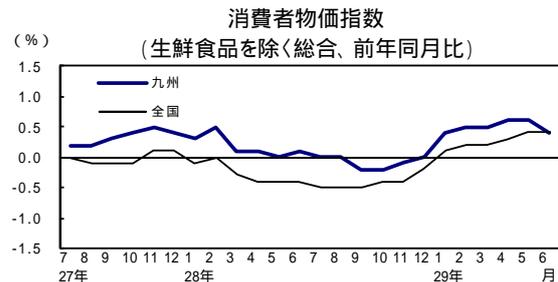
「引き続き求人数は増加傾向がみられ管内の有効求人倍率も高い水準で推移している (職業安定所)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額はおおむね横ばい。

- (3) 消費者物価指数は上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	151	133	128	128	39
(前年比)	4.4	9.5	15.2	12.3	39.1
負債総額	387	135	326	264	20
(前年比)	79.0	50.7	17.6	2.6	71.3



#### 景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- 平日は平年並みか少し多い来客数だが、休日は一昨年を越す勢いとなっている (観光名所)

##### <先行き>

- 当社も働き方改革をしており、従業員の労働時間も減り、利益率が非常に上がってきている。このままていくとかなり良くなる (スーパー)

#### 景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

